

萬國新聞紙 第二

慶應四年戊辰五月

西垣文庫
文庫 10
7369
2



特 文庫10
7369
2

萬國新聞紙第二



大英國史

英國教師 ベーリー先生編



紀元八百七十一年より九百一十年迄
日本貞觀十三年より康平元年迄

アルフレッド其臣下我愛し防ぎ守り敵と烈しく戦へども最初の臣下おほきを喜びて全く王の大勇を志しざる故ちり「アルフレッド大み怒り獵るるこゝろや遊ぶ夏を好む者を賤しやりよつて人民多くハ王を見捨て「テニス」に從ふ者スハ

他國へ出奔せりアルフレツド是非なく貧民の
形ち身をやつし豕を養ふ人の小屋に逃入豕
の眷属の如くして日を送り豕の
妻思ひをり此人のテニス捕へらる夫よ
に逃出したる兵士ちんと或日アルフレツド
火の側小座し弓矢を作て居りしが此家の妻餅
鉄きうのをアルフレツド共餅の焼るをね
りし氣と舟具しと頼み置出行たりアルフレツ
ド固く請合獨坐し自分の因を悪逆ちりテトン

スの為崩きし始末を考へ餅の燃る我忘れ
やがて其家の妻餅り餅如何ちりやとを思
の外餅いくをぶてり故大ひ怒りて去る
の汝毎々我焼しち我遠慮なく食るが其餅
を焼くも出来ぬ程の不性奴ちりて大に
誇まり然るも其後此妻彼のアルフレツド王を
る妻を知り彼を可りしおとを悔しとぞアル
フレツドの笑ひ夫婦の者去り我汝等の
為に危きを救ひし以恩交して忌むかくと

○此後ハアルフレッドハ其民無李たるを賤ま
ど彼等を賢くかきんとせり且我心穏順ちらん
吏を自うら勉めて學べて春最ト是此王次第
其忠臣を集りハムルセツトシヤイル地ノエセ
ルニト云処マ皆住せりエセルニの地以頃
ハ森のりち小なき島ちり一爰ト王屢デーン
ス襲へりデーンスハアルフレッド死せり又
他國へ逃去しちんと思ふ故襲ふ者ソグモ上
ト来るを知らり一〇ウエツセツクスノ民ハ其

死する前ニ其旗をくして一船百艘あり英人航海
吏らとを學び得て外國と交易を始りて以王ハ
民の爲ニ數多善事をあせり航海の吏を教へ英
國此民賢く幸いふきん吏を日夜勉めてありち
き國法并ニ正しハ裁判人を民小下ニ要用ちる
吏を李ぶとふふをげすハ太切ちる吏を書き李
校を建て賢き人を索り出りて師とちり此時
の間アルフレッド烈しく痛病の爲小ちやり
日々ふおと後へちせとも天ニ助きを請死する

追働き一と此王ハ其子エドワーツゼエルドル
ノ職を譲りて九百一年小死せり

蒸氣船燈の規則

帆前船並蒸氣船の度

帆前船及び蒸氣船互以小突當るべき向方一々
走る時ハ蒸氣船帆前船両道を退くべし
第十六 蒸氣船其早さ浅遅くする度
蒸氣船他船小近しと突當らんとする時ハ其早

き浅おそくするをり余儀ちを時ハ止て後を向
登しつづきの蒸氣船一ても霧降取ハ中等の早
き一々走るをり

一船他船小追付度

一船他船小追付時ハ其先の船れ道ヲ出べくば
第十九 二十四 二十五 及び 二十七ヶ條ノ付

ては事

右の規則一々兩船の一ツ他の者の道を通らば
し左のヶ條ヲ随ハ他の者の其道を保つべし

非常の場合に於て危き或逃る或
右の規則に随ひ危き或とて 配意を盡し又余
義なき場合を於てハ急に危き或逃まんが為
間ふ右の規則に違ふ或りりり如き場合に
とて 配意を盡し

毎々當前の用意をおこころ

ぞろぞろとる或

燈一びを掲ぐるの憶えりりい合図をさるの
憶えりりい見張の憶りありり水夫業をな

を或の憶えりりちり

此新聞中ハ亜医の引札ありりハア
リカ及ハ合衆國に於て数多の病人を取扱は
りりりて大いハ熟達し當國に來りハ近比也
とソレども直に日本人の博く知所とちり人可
し日本の藥艸を外國人未だ精しく知ざるを大
いに驚かす彼當國に來り日數十日も過ざる
十年前より當國に滯留の医師未だ見出さざる
藥草を見出さる是粘魚頭の類の英名サルサベ

リルラ。廉名冊ツサペルラと云也。此草ハ當港
の近辺ニ數多アリ多分ハ諸所ニアリ人若此
御一見チキ度御方々ハ百一番ベリリ方へ
御出可被成候此追日本人此草の汁を外国人ト
リ高金出して買ハガ此草日本ニ數多アリ故
れより買ハク不及却て外国人ニ賣成買ハク
チラズ此一品を見出キ一のトシテハ日本人
ハハ大ハチラ利益トシ人々又當國ニおる
ハ交易の品ニオチるべき藥中數多あるベリリ

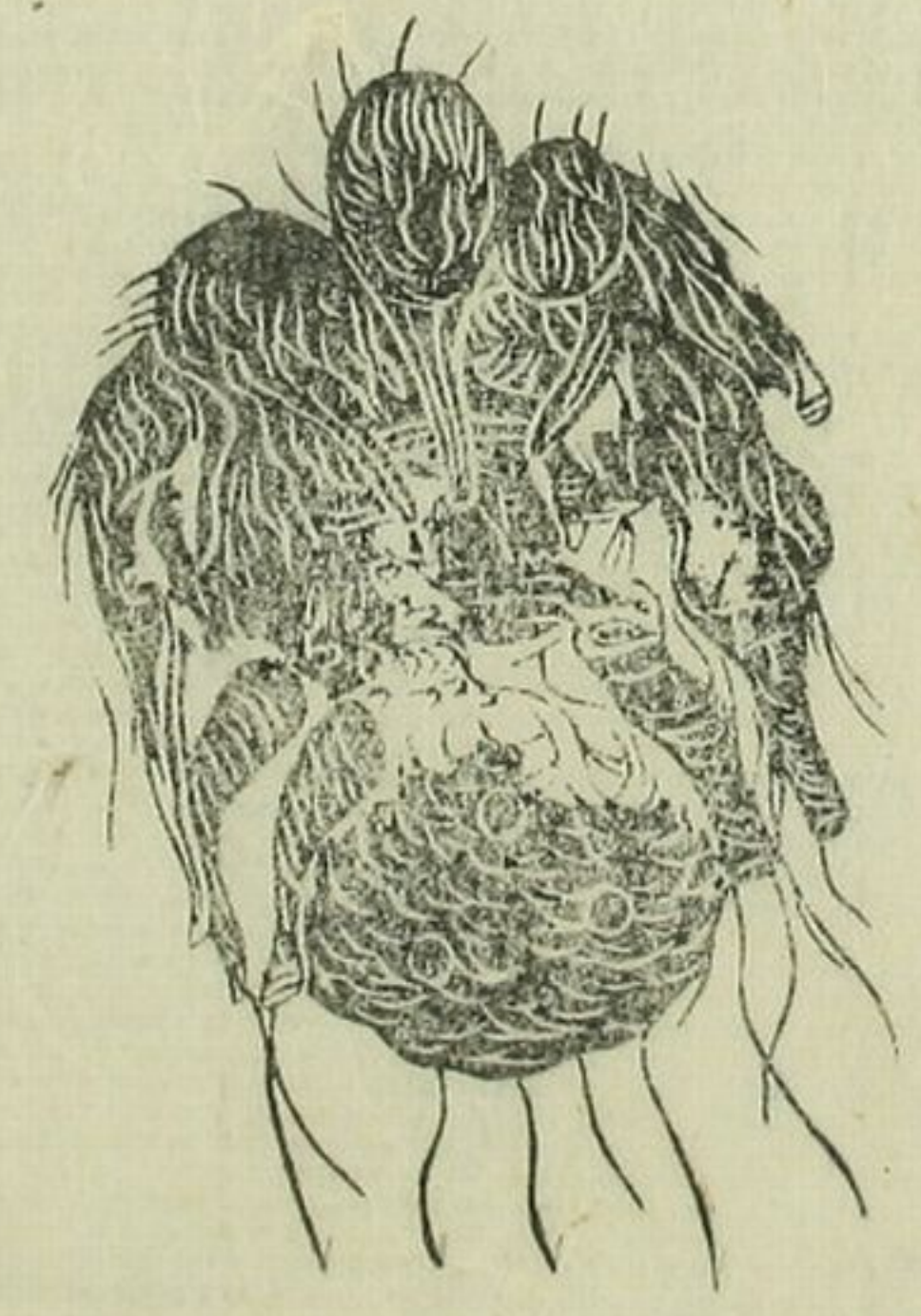
の如キ性質の人ハ日本人の爲ニハ實ニ愛スベ
キ人チリリ日本人の爲ニ要用ナル変を心實
ニ種々此新聞紙中ニ加ヘリ先其中ニ弟一の
事ハ日本人十人の内六七人疥癬を病ニキを防
グ法料治の仕方等左ニ記ス

疥癬治療之法報告

此病ハ皮膚の間のこみ一々内身ニ入チ稀
チラ然レども血液不潔チラ甚キハ内
身ニ入変ルチラ此病ハの根元ハ小虫の皮

蠶^ハ食^ク入^ルる^ルゆ^クち^リ或^レ人^ニ見^レ微^シ鏡^ヲ用^テ此^ノ虫^ヲを^シ
 一^ニ其^ノ形^ヲち^シ小^シち^シ甚^シ一^ニ短^シ髮^ト全^シ身^ヲを^シ蓋^ヒ口^ノ
 大^キ以^テち^シ事^ヲ恐^ル一^ニ八^ノ脚^{アリ}進^シ退^シ是^レ又^レ速^ク子^ヲ
 脚^ノ先^ヲ吸^テ付^ス其^ノの^ノり<sup>是^レ其^ノ食^{入^ルる^ル穴^ニ}
 吸^テ付^ス是^レを^シ離^ス一^ニむ^ス甚^シ一^ニ眼^ヲち^シけ^シま^シど
 小^シ難^シを^シ受^ル人^トと^シる^ルと^シき^ハ龜^ノ如^クた^チま^シち^{頭^ヲ}
 八^ノ脚^トも<sup>小^シ皆^チち^シり^り卵^ハ通^{常^ニ}十^{六^ニ}宛^{産^ス}日^{數^ニ}
 凡^ソ十^{日^ニ}斗^リ一^ニて^りる^る増^シ甚^シ一^ニ速^クち^リ爰^ニ
 此^ノ無^{血^ト}虫^ノの^ノ形^ヲを^シ蓋^スる^{所^ハ}五^{百^{倍^ニ}}大^キ一^ニを^シ</sup></sup>

一^ニ如^クち^リ
 ○此^ノ種^ノ物^ハ右^ニ記^セ一^ニ
 虫^ノの^ノを^シ一^ニて^り其^ノ場^{所^ハ}
 通^{例^ニ}薄^キ皮^ノの^ノ湿^シ一^ニ多^シ
 所^ニ生^ズ血<sup>液^{不^{潔^チ}}一^ニ
 一^ニ時^ハ彼^レら^ノ食^{物^ト}と^シる^ル一^ニ
 多^ク又^レ癩^{癧^ノ}の^ノ病^ハ一^ニ若^クハ^{全^シ}身^ヲを^シ廣^ク一^ニや^ク
 一^ニす^レバ<sup>腸<sup>胃^{肝^{臟^ニ}}及^ビ一^ニ昔^ハ一^ニ此^ノ病^ハ一^ニ名^{付^ク}
 一^ニ七^{年^ニ}疾^{癘^ト}と^シ一^ニ烈^シ一^ニち^リ一^ニ又^レ愈^シ一^ニ遲^ク</sup></sup></sup>



ニハ

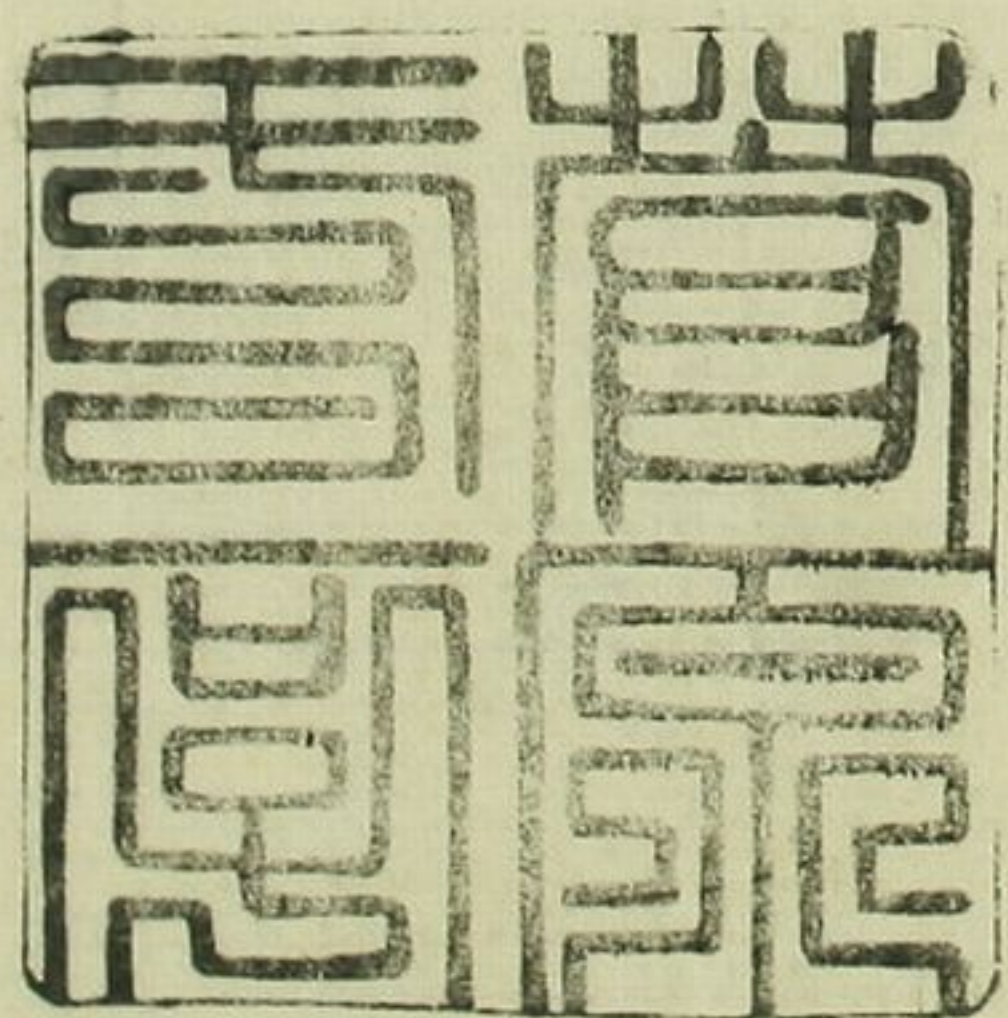
元七年の間も煩ひ一処を以てかく名付しきり
然し是の誤りきり血液を全く純粋にたらしめ
とすきバ新らしき血液を以て以前の血液より
へしむる丈の分量を要せしむるこのごとく
血液を變ぢしむるは七ヶ年の間より甚く
らば○大馬の如き獸に此病ありて人へ傳
染する時の種物のうち通例といふ大に異ふ
て此人の皮膚の獸より細くゆるくなり又
此病にちる者と一処にゆるくなり其者の体を

と多るしる傳染する変り此病の洗湯の
如く互に体を合せしめ止むんば治し
ぐくヨウロツバ人の治し方の血液を純粋に
ちん変りしども医者了簡より種々あり
脈の血液の悪きを直さるる故に其働きをば
また薬を用ゆるを最上といふ又食物のちり
とも同品を食まじ他品よりとらさ
しむる塩のうき油は肉つぶりやまの
魚の食すぐり魚を毎日食ふれ人の生の

肉々く飲のやりて小麦の粉々替へー「サルサ
ペリラ」ステリンヂヤ職の出る木のろい「コリダリス」フオルモ
「サツサフラス」イエル「ロードツク」ボルンドツク
血液を純粋にするに最もよき薬品より日
本より多く生むれども其日本名を未だ知らん此
を煎じろく日本人の煎茶よりさへあつち
一日二三度ツ飲バ数度腹を下に一時薬を止
又始めて服を下と此さへすまば四五ヶ月の
内血液等大に变化すべし之の疾癩なるその

ハ他の者を一処に水み入るぐくば又屢入湯
さぐく候隔日小酔を洗ハアルカリ汁塩の多く
入るる「シヤボニ」を用ハ速に洗ハ湯ハ成丈暑く
まらをとくと入湯の後并に朝夕ハ種物の所
を「コ」ク木の名くいのの根の皮を煎じ「パイ」ント合三
タふ又「コシヨウ」を茶七五一の「ウオ」シ「ン」ダリ
「ダ」半「コ」ラン「フ」ニ重余り「硫黄」半「コ」ラン「フ」交合せて
よく瓶に入てより海綿にうすく切て付べし
此おとくすれば大概の疾癩ハ治るべきとぞ身ハ

新張堂



一 面^ヲ生^シト^テり^ル人^ノハ^宜シ^キ医^シ師^ヲを^呼べ^ル

二
十

